

第 4 回 館 山 市 議 会 定 例 会 会 議 録

(第 3 号)

1 平成4年12月16日(水曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 27名

1 番 秋山 光章	2 番 増田 基彦
3 番 島田 保	4 番 斉藤 実
5 番 宮沢 治海	6 番 植木 馨
7 番 鈴木 順子	8 番 永井 龍平
9 番 脇田 安保	10 番 庄司二三男
11 番 山崎 雅己	12 番 岩村 勝弘
13 番 榎本 春光	14 番 小宮 利夫
15 番 山中金治郎	16 番 鈴木 勝美
17 番 鈴木 忠夫	18 番 日下 君敏
19 番 川名 正二	20 番 生稲 陞
21 番 神田 守隆	22 番 福原 勤
23 番 石井 昌治	25 番 流山源次郎
26 番 辻田 実	27 番 横溝 功
28 番 飯田 義男	

1 欠席議員 なし

1 出席説明員

市 長 庄司 厚	助 役 小幡 清之
収 入 役 川上 義雄	市長公室長 永野 修
総 務 部 長 斉藤 賢司	民 生 部 長 佐藤 澄雄
経 済 部 長 小沼 晃	建 設 部 長 伊東 衛
水 道 課 長 鈴木 信一	教 育 委 員 会 長 高橋 博夫

1 出席事務局職員

事 務 局 長 兵藤 恭一	事 務 局 長 補 佐 土橋 康彦
書 記 鈴木 哲	書 記 鈴木 修一
書 記 松浮 郁夏	

1 議事日程（第3号）

平成4年12月16日午前10時開議

- | | | | |
|------|---|--------|--|
| 日程第1 | { | 議案第70号 | 館山市の休日に関する条例の一部を改正する条例の制定について |
| | | 議案第71号 | 館山市職員給与条例の一部を改正する条例の制定について |
| | | 議案第72号 | 館山市地域福祉基金条例の一部を改正する条例の制定について |
| | | 議案第73号 | 館山市企業職員の給与の種類及び基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について |
| | | 議案第74号 | 財産の取得について |
| 日程第2 | { | 議案第75号 | 平成4年度館山市一般会計補正予算（第4号） |
| | | 議案第76号 | 平成4年度館山市国民健康保険特別会計補正予算（第2号） |
| | | 議案第77号 | 平成4年度館山市ユースホステル特別会計補正予算（第1号） |
| | | 議案第78号 | 平成4年度館山市下水道事業特別会計補正予算（第3号） |
| | | 議案第79号 | 平成4年度館山市水道事業特別会計補正予算（第1号） |
| 日程第3 | { | 議案第80号 | 平成4年度館山市国民宿舎事業特別会計補正予算（第1号） |
| | | 請願第10号 | 「義務教育費の国庫負担削減に反対する意見書」採択に関する請願書 |
| | | 請願第11号 | 「第6次公立義務教育諸学校教職員配置改善計画の完全実施を求める意見書」採択に関する請願書 |

開 議 午前10時01分

◎議長（福原 勤君） 本日の出席議員数27名、これより第4回市議会定例会第3日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第1、議案第70号乃至議案第74号の各議案を一括して議題といたします。

質疑応答

◎議長（福原 勤君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

21番議員神田守隆君。御登壇願います。

（21番議員神田守隆君登壇）

◎21番（神田守隆君） 議案第70号館山市の休日に関する条例の一部を改正する条例の制定についてお尋ねをいたします。

来年の4月から毎週土曜日も休日にするとのことですが、提案説明によりますと、国、県、近隣市町村との均衡を考慮したとされているわけがあります。館山市は近隣市町村に比べて実施が遅いのではないかと思います。この近隣市町村の実施状況はどのようになっているのか御説明をいただきたいと思います。

次に、この結果労働時間が短縮ということになるかと思いますが、例えば清掃部門や保育所、図書館、公民館、国民宿舎、幼稚園などの職場ではどのように実施するのでありましょうか。これらの職場では、市民サービスを低下させないということであれば、当然人員をふやすことも考慮しなければいけないと思うのでありますが、この点についていかがお考えでありますか。

次に、議案第74号財産の取得についてお尋ねをいたします。館山工業団地の関連用地として、1万8,863平方メートルの土地を王子不動産から6,224万7,900円で買収しようとのことですが、この提案説明の中にあります関連用地というのはどういう意味なのか御説明をいただきたいと思います。

次に、この購入価格 6,224万 7,900円ではありますが、平米当たりで換算をいたしますと約 3,300円、坪単価だと約 1万円からの価格になろうかと思うのでありますが、この価格の根拠について御説明をいただきたいと思います。

次に、9月市議会でこの工業団地の進入道路にかかわって、市道としての認定の議案が出され、議会で承認をしたところではありますが、その後この道路について地権者の同意が得られていないという話を伺いましたが、この用地取得についてはどのような目途になっておるのか御説明をいただきたいと思います。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの神田議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、議案第70号についての小さな第1点目、近隣市町村の実施状況はどうかとの御質問でございますが、安房郡内の町村につきましては平成4年11月から実施しております。鴨川市につきましては5年2月から実施の予定と聞いております。県下各市の実施状況は、平成4年11月実施が8市、12月実施が1市、平成5年1月実施予定が2市、2月実施予定が7市、4月実施予定が館山市を含み11市、未定が1市となっている状況でございます。

次に、小さな第2点目、清掃部門、保育所、図書館、公民館、国民宿舎、幼稚園などの職場の労働時間はどのようになっているかとの御質問でございます。これにつきましては人員増加が必要ではないかとの御質問でございますが、労働時間につきましては閉庁部門、開庁部門とも週40時間となり、4週8休を原則としてそれぞれの職場に応じた勤務形態を導入し、住民サービスの低下を招かないよう実施してまいり所存でございます。

なお、実施に当たりましては職員の増員は考えておりません。

次に、大きな第2、議案第74号について、その第1点目の御質問でございます。館山工業団地計画区域内に70%弱の土地を所有する王子不動産株式会社が計画区域外に所有している土地につきまして、本事業を推進するため、館山市が取得しようとするものでございます。取得後の土地につきましては

代替地等への活用を図ってまいりたいと考えております。

次に、小さな第2点目の御質問でございますが、購入価格につきましては、千葉県企業庁が不動産鑑定を行い決定いたしました計画区域内の土地購入価格と同一でございます。

次に、小さな第3点目の御質問でございますが、進入道路に関しましては、去る9月10日及び11日の地元説明会を経て、現在地形測量及び路線測量に入る段階でございます。今後はこれらを踏まえまして用地測量を実施し、道路用地を取得する予定となっております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 議案第70号に関してであります。一応近隣等の実施状況については、それはそれとして了解をいたします。

労働時間の関係で、週40時間、4週8休を基本としてということで、それぞれ閉庁部門も開庁部門もやっていくんだということでありますから、それはそれとしてわかるわけですが、端的に清掃部門あるいは保育所の部門、これは土曜日休みというわけにいかないわけで、開庁ということになるかと思うんですが、そういう中で職員の休みを交代でとるという形になりますと、どうしても市民サービスの低下につながりはしないか、これはどうしてもその部門については人をふやさないわけにいかないんじゃないかなというのが――常識的に考えればそういうことになろうかと思うんです。そういう点で、職員の増員は考えていないということでもありますけれども、その辺は本当にそれで住民サービスの低下にならないのか。補正予算を見ましても、清掃部門あるいは保育所部門、臨時職員の増ということで、それぞれ今回の補正予算で追加の予算も出されているような状況も一方であるわけですので、ここは本当に職員の増というのは考えなくていいんだという前提でいいものか、その辺のお考えを御説明いただきたいなと思うんです。住民サービスの低下につながらないのかという点です。

それから、74号の財産の取得に関してであります。王子不動産の土地を買収してということでもありますけれども、企業庁の買収価格と同一の価格と

ということですから、それはそれとしてわかりますが、一つはこの山林の面積なんです、一応公簿か実測か、どちらでこの面積は算定をされているものなのか。

それから、進入道路の問題で、今後用地の取得を進めていくということ、その日程をお話しになったんですけれども、9月の市議会では追加議案ということで市道の認定議案が出されて、これは急遽出されたというその事情もわかるんですけれども、その前提の条件は、住民との間でこの計画路線についての話し合いがついて、地元との同意あるいは合意、こういったものがついたからということで御説明をいただいたというふうに記憶をしておるんですが、全員協議会でのことでしたから正確な議事録等はないわけですが、すけれども、私は一応そういうふうに承知していたわけなんです、その後地元の方では同意をしていないんだ、地権者がしていないんだ、こういうような話も耳に入ってくるというようなことで、一体どうなっているんだというのが率直な疑問としてあるんです。その辺は一体どうなのか。私らだまされたのかなというような思いもするわけで、その辺についての御説明をいただきたい。

以上。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（斉藤賢司君） 週休2日の実施に当たりましては、サービスの低下を来さないよう、事務の簡素効率化、処理体制の整備等、職員の創意工夫により対応してまいりたいというふうに考えております。

なお、必要な場合にあっては臨時職員での対応も検討してまいりたい、そのように考えております。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） お答えいたします。

まず、面積は公簿面積か実測かという御質問でございますが、これは公簿面積でございます。

それから、進入道路に関しましての地元の了解ということにつきましての御質問でございますが、これは9月の10日稲区、11日寶貝区、関係されると

思います地権者の方にお集まりいただきまして、この計画案について御説明をいたしました。基本的には御了解をいただきまして、立入調査等につきましても同意をいただいた、そういうことでございますが、その後個別的に御意見のある方が出ているということは事実でございます、現在その辺の調整といたしますか、お話し合いを進めている、そういう状況でございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 一応とりあえずは人手の問題については臨時職員ということで、正規の職員を採用しなくてもやっていけるという意味だろう、しかし、臨機応変にそこは考えていくんですよという含みがあるということで、そういうことで一応理解をしておきたいと思います。

次に、財産の取得の問題でありますけれども、ということは、一応市としては10日、11日にそれぞれ説明を行い、住民の同意が得られたというけれども、現実に地権者からその後異議が出されて、異論が出されて、現在調整をしているということになりますと、これは計画の進行ということからすると大変ゆゆしき事態に至ることも考えなきゃいけないんじゃないかな、こういう気がするんですけれども、こういう問題でありますから、言ってみれば進入路の問題はこの計画全体の死命を制するような問題かと思うんです。だから、それだけに慎重な対応が必要ですし、また十分住民との話し合いを詰めていくということが当然望まれるわけなんですけれども、こういう問題について現在調整をしているということではちょっと納得をしかねる点があるんです。結果的に市としては悪意があったとはとても思えませんけれども、議会としてもそういうことを了として9月議会でこの問題を承認をしたといういきさつもあるわけで、現在の段階でまだ地権者との話し合いがついていない、こういうふうに今理解をせざるを得ないんですけれども、そういうことなんですか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） 条件といたしますか、そういうようなものも出てきているわけでございます。これは人家に近いようなところの方から少し下

げてもらえないとか、そういうようなものもございますし、そういう条件等をクリアできるように、私どもといたしましては誠心誠意お話し合いをしながら解決を図っていきたい、このように考えます。ただ、これは区全体の考えということではございませんで、あくまでも個別に——これこういうふうに入ってまいりますと、そういう細かい部分が出てまいります。そういうことでございますので、そういう条件等、お考えを聞きながら、対応できるものについては対応しながら御理解をいただいていく、このように考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 以上で21番議員神田守隆君の質疑を終わります。

次、1番議員秋山光章君。御登壇願います。

（1番議員秋山光章君登壇）

◎1番（秋山光章君） 私は、さきに通告をいたしました議案第70号館山市の休日に関する条例の一部を改正する条例の制定についてお尋ねをいたします。ただいま神田議員の方からいろいろ御質問がありましたが、私としての質問をさせていただきたいと思います。

まず最初に、皆様に御礼を申し上げます。先般10月の20日から10月の31日までの12日間にわたりまして、全国市議会議長会の主催によります米国、カナダの研修視察に行かせていただきました。先輩の辻田議員とともに参加をさせていただきました。

アメリカ、カナダは皆様御承知のとおり週休2日制を導入している大先輩でございます。視察中のニューヨーク5番街のティファニーもその他のデパートも全部休みでした。店のあいているのはコンビニエンスストアとホテルのみ。また、ニューオーリンズ視察の際には、ミシシッピ川を船で渡っていたときにタグボートに引かれている台船の上に10台ぐらいのキャンピングカーを載せて川を上っていく人たちの優雅な姿を見てまいりました。やはり休日をうまく使いこなしている人たちだとしみじみ思いました。これからは見てきたこと、聞いてきたこと等を館山市の政治の中に提案し、生かしていきたい、そのように思っております。

なお、空出張でなかったことをお誓い申し上げます。

さて、リゾート地館山市といたしましても、皆さんが週休2日制を導入され、泊まりがけで館山に来ていただければリゾート地の意味がないと思います。今や日本は世界一の経済大国になっていますが、これはひとえに日本人の勤勉家一つに尽きると思います。しかし、今日では日米経済摩擦のあおりを受けて労働時間の短縮を余儀なくされています。時短という言葉も生まれました。時短は各自治体、企業では焦眉の急と言わなければならない問題だと思います。過日の労働省の調査によりますと、現在の若者は給料が少しぐらい安くても時短の方がよいという調査結果が出たそうでございます。そんな中で、館山市の条例改正については心より賛同するものでございます。

国、県はもとより、出雲市、また県内でもたくさんの市町村にて週休2日制が導入をされております。2日間の連休で体力、気力、知力を十分充電をしてもらい、あと5日を頑張ってもらえばいいなと思っております。人間疲れが出ると笑顔がなくなると言います。いつでも笑顔で楽しい職場はお客様を快く迎えることができると思います。

そこでお伺いをします。館山市はいろいろな面で後手後手に回っている点が多々あります。今回も県内で18の市が館山市より先に週休2日制を取り入れております。館山市が週休2日制で他の市よりおくれた理由、またネックになる点がありましたらお示しをいただきたいと思います。

第2点目でございますが、市民課窓口の休日の対応 ― 今でも死亡届けとか出生届けは日直さんが出てやってくれると思いますが、今までとこれからの対応を具体的にお示しをいただきたいと思います。なお、市民サービスの低下にならないのか、またどのようにカバーをするのかも教えていただきたいと思います。

3番目でございますが、原則として増員をせずに週休2日制を実施という建前だと思いますが、各部署において同じ仕事、またこれからふえるであろうという仕事量をどのような合理化をもって対処するのかお示しをいただきたいと思います。

4点目でございます。1週40時間から46時間を40時間から44時間に変える

わけでございますが、各部署において土日開館の職場もあると思います。それぞれの労働時間等も教えていただきたいと思います。

以上で質問を終わりますが、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの秋山議員の御質問にお答えいたします。

議案第70号の週休2日制の実施問題でございます。週休2日制の実施がほかの市よりおくれた理由は何かとの御質問でございますが、週休2日制を導入するに当たりましては、何よりも住民の理解と協力を得ることが不可欠でございます。行政サービスを低下させない、このための対策が必要でございます。したがって、館山市では慎重に取り組んできたところでございます。

なお、館山市と同じく平成5年の4月からの導入予定の市は館山市を含めまして11の市でございます。

次に、市民課窓口の対応についての御質問でございますが、今後週休2日制となった場合におきましても、従来の休日業務と同様の取り扱いは実施いたします。さらに、電話予約による証明書類の休日交付等を含めまして、住民サービスを低下させないための対応策を現在検討中でございます。

次に、各部署において同一の仕事量をどのように合理化して対処していくのかとの御質問でございますが、行政事務の簡素化、効率化、処理体制の整備の推進を図り、日ごろからの行政サービスの改善、向上に努めるとともに、緊急時の連絡体制の確保など、各般の工夫を行ってまいりたいと考えております。

次に、それぞれ異なった部署で週休2日制を実施するに当たりまして、全部署40時間勤務で問題はないかとの御質問でございますが、先ほど神田議員にお答えいたしましたとおり、4週8休を原則としてそれぞれ職場に応じた勤務形態を導入し、実施してまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 秋山光章君。

◎1番（秋山光章君） 今おくれた理由に対しては対策をとということでございますけれども、いろいろな市で、全部の市がそれこそ対策をして始めたものだと思います。そういうわけで、これはもうとにかくどの市でも急にやったことじゃないと思いますんで、それはもう館山市がおくれているのか、もっとほかの理由があったのかということも聞きたいんですが、それだけでは何か理由にならないような気がします。もう少し早くから、もうよその市がやるのであれば、それこそ出雲などはもうずっと前からやっているということです、国、県もやっておりますので、もっと早くから対策を市民への口コミとかいろいろな面でやればもっと早くできたんじゃないかなと思っておりますが、それはいいといたしまして。お客様に接する現場の皆さんが、直接お客さんと接する人が館山市の顔、また市役所の顔になると思います。そういうわけで、現場の人がいつでも快く接することが一番大事なことであります。そんな職場をつくるのも市の執行部、また議員の我々の仕事じゃないかなと思っております。ぜひ各部署におきまして週休2日制になったときに、館山市はやっぱり2日休んだだけ何か元気、みんな元気でいい感じだなと言われるような対応に持って行っていただければありがたいなと思っております。

2番目です。市民課窓口は一般の方が一番お世話になる場所であり、また我々も印鑑証明等をもらいに行く場所でもあります。今でも休日には何人かの職員が出動をしております、できる限りの受け付けまたは処理をしてくれていると思いますが、どこまでの書類が出せるのか教えていただきたいと思っています。

そして、鴨川等では — きのうちちょっと鴨川市役所に行ってまいったわけでございますけれども、館山市の市民課で普段扱っているできる限りの書類 — どこまでかちょっと私もはっきり — 書いた紙を置いてきちゃったんですけれども、出せるんだよということを言っております、また鴨川の場合は — 平日なんです、各出張所ですか、昔の役場みたいなところで、平日は9カ所、住民票だとか年金相談とか、いろいろな収納、納税ですか、収納

の仕事まで今までは9カ所のところで受け付けている。だから、大山の山の中からバスに乗ってこなくても、そこで住民票もとれるし、いろんなものがとれるということでございます。館山と随分違うなとは思いましたが、その中で、このほど開店をいたしました扇屋ジャスコの4階でそれこそ同じものがとれる。今回はジャスコのオープンしている間に――10時から7時までですか、時間が過ぎた場合には電話予約ということでございますが、今市長答弁にもありましたように、館山でも電話予約でとれるということを知りまして安心はしたんですけども、そういう中で日曜、祭日でも電話予約により書類がとれるということでございます。そうしますと、同じ南房総、館山と鴨川何キロも離れていないで随分――人口も館山の方が多いわけですけども、住民へのサービスは館山と随分違うな、そんな感じもしてきましたんで、ぜひできる限りのことを考えてやっていただきたいと思います。

そこでお伺いしたいんですが、今回扇屋ジャスコすごいテナント料でテナントの募集をしておりましたけれども、館山市ではその中に入っていくつもりがありますかどうかということもお伺いしたいと思います。そのほかに、西岬の方から年をとった方が館山駅をおりましてここまで歩いてくるのも大変だと思いますけれども、館山の駅前で出張所というような格好で――今観光案内所もあそこにあります、あそこらは館山市の土地かと思います。そういうところに市の出張所等を出して住民サービスを図るというような意思はありますかどうもお伺いしたいと思います。

質問の3番目でございますが、増員をせずにいかにしてやりくりをして今までよりもよいサービスをしていくかということの中で、館山市行政通則の中に館山市職員提案規則というものがあります。これをちょっと読んでみますと、「この規則は、市政全般について、職員の積極的な提案を奨励することによって、職員の勤労意欲の高揚を図り、もって市政の発展に寄与することを目的とする」ということでございますが、これは事務の簡素化とか、いろいろな面で職員に提案をしてもらって、それを採用するといった点で、いろんな今回の人員不足ですか、サービス向上のためにこういうものを使ってやったらいいのじゃないかなということで私もこれを見たわけでございます。

その内容は、「提案は、事務、事業に関する工夫、考案、改善、企画等創意による実現可能な具体的かつ建設的な案で次の各号の一以上の要件を備えたものでなければならない」となっております。「事務、事業の能率向上に役立つもの、市民サービスの向上に役立つもの、経費の節減になるもの、収入の増加が期待できるもの、その他公益上効果が増大するもの。」。提案の時期といたしましては、「職員は随時提案することができる。ただし市長は特定事項について特に期間を定め提案を募集することができる」と書いてあります。今回のこの週休2日制を導入するに当たりまして、いろいろな面でネックが出ると思います、いろんな部署で。それをこういうものを使ってやったらいいんじゃないのかなと感じるところでございしますが、それにつきましては報償がありまして、「採用と決定した提案は、これを職員一般に公表し、提案者に対しては、市長がほう償及び報償金を授与することができる」となっております。こういうものをうまく活用してやったらいいんじゃないかなとは思うわけでございますが、今までにこういうものを使って報償されたものがあるかどうか、そしてあったら具体的にこういうものがあったということをお示しをいただきたいと思います。

以上で答弁をお待ちします。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 私の方からは、まず現在いわゆる証明書等の種類がどういうものがあるかというような御質問でございますけれども、いわゆる戸籍の謄抄本から始まりまして、この謄抄本の交付以外に除籍とか原戸籍とか、そういうような謄抄本の交付、それと戸籍に関する受理の証明の関係、それから一般的な住民票の写し、それから印鑑証明、それから年金の現況届、それから外国人登録証明、それから住所証明、所得証明、課税証明、納税証明、評価証明、資産証明、車庫証明、廃車証明等々があるわけでございます。ただ、今回の2日制に関連した、市長の方から答弁いたしました電話予約とか郵便依頼による対応可能なものの中では、戸籍の関係がやはり——本人の確認というようなことがありますんで、法的にどうかということがあるわけでございますけれども、こういうようなものが——完全週休2日

制になって、市民サービスを低下させないような方法を現在検討中ということでございます。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（齊藤賢司君） ジャスコあるいは館山駅前等に出張所の開設はできるかどうかという御質問でございますが、出張所の開設については考えておりません。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（永野 修君） 提案制度につきまして御説明申し上げますが、御承知のように提案制度は昭和40年度にできたわけでございますが、過去いろいろと提案をしていただいております。一般的なものといたしましては、市民課の待合室にテレビを置くとか、あるいは庁舎の案内図をつくるべきだとか——これは採用されたものでございますが、仕事のことは、例えば清掃処理場におきまして廃油を利用いたしまして圧縮機を改善するとか、いろいろな提案がございました。それにつきましてはいろいろ評点をつけまして、報償制度を実施しております。

さらに、59年度から——これは人事課の所管でございますけれども、いわゆるQC活動ということをやっております。これはクオリティーコントロールということでもって、民間ではいわゆる品質管理ということでございますけれども、自治体の場合については、自分の仕事あるいは職場のレベルアップを図るために、自分の仕事を見詰め直しながら、いわゆる一つの小集団をつくりまして——大体5～6人になるわけでございますが、そこでもって提案をいただく。これは59年度からこのサークルが約270、延べにして約1,700人が参加してございます。270サークルということは270件のいわゆる提案があった、こういうことでございまして、それについてもいわゆる部ごとに1つ選びまして、そういう報償というか——この場合にはテレホンカードをやったようでございますけれども、そういうような形で活用している、こういうところでございます。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 先ほどの中でさらにちょっと追加をしておきた

いと思いますが、議員さんも御承知のとおり、館山市では行政区担当職員という制度が——これ非常に珍しいといえますか、独特の制度があるわけですが、その中で市民連絡便というような名称をつけまして、各市民から行政区担当職員のところに、いろいろ用を頼まれてするというようなサービス、それと郵便メールというような制度でいわゆる市民のサービスの向上を図っているところでございますので、そういう部分も含めまして今後サービスの低下がないようにやっていきたいというふうに考えております。

◎議長（福原 勤君） 秋山光章君。

◎1番（秋山光章君） ただいまジャスコ、そして駅前のあたりにそういうものを設置する予定はないということでございますけれども、館山駅をおりても、正面に見える観光案内所ですか、これは市の建物とは違うと思いますけれども、今までありました——少し小さかったんですが、警察もきれいになりました。館山駅の顔といたしまして、あの観光案内所、あの辺に市民窓口的なものもつくって、そして観光課と一緒に館山の顔としてやっていったら、これから住民サービスだけじゃなくて、よそから来た人へのサービス、いろんな面でいいんじゃないかと思えますけれども、こういうことをぜひ検討をしていただきたいなと思います。

そして、帳票類はいろいろな市でいろいろなものを出していると思いますんで、ぜひ館山市もよその市にあってここじゃ出ないということのないような、よそで出ているものなら館山で必ず出ているよ、そういうように我々市民の人に言えるような体制づくりをぜひお願いをしたいと思います。

先ほどの報償金の件なんでございますけれども、一番最近のその報償金が幾らぐらいで、どんなものがあつたかひとつ教えていただきたいのと、ただ今決まり切ったことを60歳までやりまして、大過なく定年ということでも今いけないと思います。こういう時代ですんで、少しでも何か——自分たちの職場、そして自分たちのまちですので、少しでも何かいいアイデア、いい方法をつくりまして、館山はすごいと言われるような、そんなまちづくりをしていかないと、あの人定年になった、何やったんかなというようなことでもいけないと思いますんで、ぜひ皆さんでそれこそ意見を出し合って、そし

てまたこの報償金もたくさん予算化しまして、いいものがあたらどんどんくれて、そして皆さんの意欲をどんどん盛り上げるというんですか、今発明をして稼ごうという世の中ですんで、いろんな面でそういう点、皆さんにそういう意欲を持たせて、少しでもまちがよくなればいいんじゃないかなと思います。

そういうわけでぜひ、この2つの件ですが、答弁をいただいて私終わりたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（永野 修君） 最近におきましては、いわゆる提案制度による提案というのはございません。ございませんというか、QC活動の方で非常に熱心にやっているものですから、先ほども言いましたように小集団活動ということでもって、各部ごとに第1位というか、優秀なものを選びまして、それらにテレホンカードを贈っているというのが最近の状況でございます。

なお、今後引き続き必要に応じて職員の意識改革、そういうものは進めてまいりたい、かように考えております。

◎議長（福原 勤君） 小幡助役。

◎助役（小幡清之君） 駅前の観光案内所を出張所的に利用するということは一つの御提案として——今のところ考えておりませんので、御提案としてよくお聞きしておきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 以上で1番議員秋山光章君の質疑を終わります。

次、26番議員辻田 実君。御登壇願います。

（26番議員辻田 実君登壇）

◎26番（辻田 実君） 通告いたしました議案第74号財産の取得について御質問を申し上げます。重複した質問が神田議員の方からなされておりますので、その辺については省略していきたいと思います。

まず第1点は、王子不動産の土地を今回取得することになったわけでございますけれども、先ほどの答弁にございましたように、条件になっておった、取得条件になっておった、交渉の中で必要条件になっておったのでこれを購入する、こういうことでございますけれども、どうしてこれが条件になった

のか。そして、王子不動産との間にはこの土地だけだったのか。また、この土地以外にも何かあったのか。今後そういうようなことでもって議会に出てくるものがあるのかどうか。前回の土地取得のときにいろいろ論議がありました。その過程の中で石井輝久議員が倒れるというような大変な事態もあったときですけれども、そのときの中でもこういう条件があるということは出されていないまま取得したということについては、後からぼつぼつ出てこられたのではやはり非常に、何というんですか、議会としても監督、審査の面から不十分でございますので、この際こういうような問題が――交渉して、その中から出てきた条件ということですから、今回提案される以外にどういう条件があったのか、その点はひとつ明らかにしてもらいたい。これが第1点です。

それから、工業団地の関連用地の取得の内容ということでございまして、これは神田議員に答弁ありましたけれども、代替地ということでございますので、この点については代替地ということで了解しておきたいと思えますけれども、代替地という言葉は非常にあいまいで、代替を受ける人がいるかどうかということについては、私はこの際検討しましたけれども、あの土地を代替地でもって欲しがる人というのではないんじゃないかなというふうに思うんですけれども、その点についても代替がもうある程度目安なり、何というんですか、もう確実というんですか、そういうようなものが、感触的なものがあるのかどうなのか、この点に関連して伺いたいと思います。

3番目には、1万8,863平米の用地は工業団地外で、こういう条件をしなきゃならなかったということでございますけれども、この点についてお伺いします。非常に恐縮でございますけれども、議案説明資料というのがございます、細く、長くなった。21ページになるわけですがけれども、この図案をちょっと見ていただきたいと思うんです。21ページのこの取得図案。この黒い部分が今回買うところでございますけれども、このように虫食いの土地が果たして代替地として利用できるかどうか。常識的に見ても、どう見ても――私現地視察してみないからわかりませんが、こんな形の土地をこういう形で買って置いて、後利用は困難だと思います。これがどうだったの

か、これを聞きたい。

同時に私はここでもって、この用途がなぜ——70%の土地を王子不動産から買ったわけですが、その中で条件として区域外に出すということは非常に不自然だったと思うんです。ちょっと見て悪いんですが、この黒い線の裏側のコーナーをとってぐるっと丸めると王子不動産以外の土地もあるわけです。これは非常に広がって、自然になるわけでございます。なぜ用地取得のときにこの条件としてこういう虫食いのところを残して工業区域ということを設定したのか。この黒い部分だけずっと、何というか、回して中へ入れるということは当然できたはずですが、この程度の作業ができなかったということになってくると——そしてこういう虫食いの土地を買う。これはこんな虫食いの土地買ったって何にもならないと私は思います。ですから、これが要するに交換の代替用地ということでもって、本当に坪1万円もしてこれをやるかどうかという、ほとんど考えられないんですが、そこら辺もうちょっと、どういうことかということについて、この点についてお伺いします。

それから同時に、これは区画外の土地でございますから、県の企業庁からは——ほかの土地は全部委託を受けて買っているわけでございますから、この土地は県の方と協議して、どうにもならない場合には買ってもらえるとか、そういう目安があるのか。全くこれはもう区域外だから、館山独自で買って、館山独自でもって、6,200万以上でもって、ほかの代替地としてこれを、何というんですか、売ることができなかった場合に、これはもう市が6,000万というしょい込みになる、こういう事態が起きるんじゃないか。この点についてどのようにお考えになるのか。

非常にせこい話になりますけれども、代替の場合、工業用地内の都市計画に基づいて県から買収する土地については特定の免税措置というのがあると思います。受益者の負担を軽減します。今度は工業区域外ですから、市が代替地としてこれを売った場合、単に民間に処分した場合には、そういった免税措置というんですか、そういうのは、用途が明らかに——ただ単なる雑種地ですか、山地ということでございますから、公共用地の取得に伴うところ

の免税措置というものが出てこなくなってくると、これは買う方も等価でもって買うといっても、実際には税金分だけ——敷地内については税金のかなりの恩恵がある。敷地外の交換の場合には免税のあれがかなり悪い。そうなってくると、実際に等価でもって買うとなると損をするというような事態が起きてくるやに思うわけです。そうすると、住民にとっては利益にならないと思うんですけれども、ここら辺のことまで考えておったのかどうか、そこら辺の関係についてどのようにお考えになっておられるのか、御見解を承りたいと思います。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの辻田議員の御質問にお答えいたします。議案第74号財産の取得についての御質問でございます。

まず、王子不動産株式会社から区域内と区域外に同社が所有する用地、これを一括購入してほしいとの条件が出されたものでございます。千葉県企業庁と協議して購入するものでございます。

次に、関連用地の用途に関してでございますが、これは先ほど神田議員の御質問にあったとおり、代替地等への活用を図ってまいりたいと考えております。

次に、計画区域への編入に関してでございますが、区域の決定に際しましては、千葉県企業庁において分水嶺等地形上の状況を考慮したものでございます。

次に、この関連用地を将来千葉県企業庁が購入するのかとの御質問でございますが、現在のところ企業庁で購入する予定はないということで伺っております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 王子不動産との交渉の中でもってなぜこの区域外のものが——こういうことで館山市がしょい込まなきゃならないということ

については非常に不自然だと思います、これは。こんな飛び地のところなんか買ったって、山の中道路が通るか通んないかわかんないという中でもって坪1万円の土地なんていうのはちょっとどうかと思う。そこら辺の交渉というんですか、これは下手くそというんですか、館山市は丸々 6,000万も捨て金をするようなものになってしまうと思うんです。それだったら、中の — 私は普通常識的に言って、これはもう王子不動産が条件出してくれば、これだけの 6,000万の価格はこの中の、用地内の70%の土地の中で消化してもらって、これ王子不動産にしたってやらにするぐらいにして措置しなければ、館山としてはもうどうにもならないと思うんです。それで、こんな山の中の — この工業団地の入り口の土地が、進入路がどうかということでもって、それでもって工業団地がどうなるかということの中、外観的に見たときに、あんな山の中、入っていけない土地の中、坪1万円なんていうのは、これはもうほとんど半永久的に今の状況では使い物にならないです、あんなところ。それを買うということになってくると、それが条件の中だということになってくると、非常に何かそこら辺がずさんなような気がするし、また市の方の購入についても何か随分いいかげんに買ったんじゃないか、こう思われるわけですけども、この点どうか。

それから、言葉は私はもう、私の質問の場合には言葉ではもう — この場
逃れの答弁は私は納得しませんので、ごく至近な例二つだけ出します。館山
幼稚園のあそこの駐車場になっている土地について、市が購入したときは駅
前の代替地として購入したんだけど、学校用地になって編入されておる。
老人ホームの跡を取得して、今市営住宅建っておる。あそこの取得のときも
駅前の開発の代替地として取得しておる。3年たたないうちに市営住宅でき
た。市営住宅できたのはいいんですけれども、そうだったらそのときになぜ
— 3年ぐらい先になるのだったら、市営住宅をつくるのにあそこを買いま
すと言われればいいんですけれども、議会では交換用地、駅前の開発の交換
用地として買いますと言っておいて、すぐ3年もたたないうちに市営住宅が
いいんじゃないか。いいけれども、それだったらそのぐらいはこの前でやっ
ておくべきだ。本来でしたらこの用途は、そういう面で使用が明らかになっ

ているということならいいんですけれども、これはもう本当にむだだと思うんですけれども、さっきの質問の中でもって答弁漏れありますので答えてもらいたいんですけれども、この土地を代替地として買うとか、そういう感触のあるもの、買ってもらえるだろうという感触のあるものは今まで接触の中であるのかないのか。ないとするとこれはあれなんですけれども、あるというんだったら、責任持ってこれはもう交換してもらおう、買ってもらうという——この価格以下で売なのか、上で売なのか、この価格のとおりで売なのか、その点をどう考えておるのかお伺いしたいと思います。

その2点だけについてひとつ御答弁をいただきます。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） お答えをいたします。

まず最初の御質問でございますけれども、この区域外の土地を取得するその経緯と申しますか、お答えいたしたいと思いますが、これは王子不動産が団地の区域内のおおむね70%の土地を保有しておりますいわゆる大規模地主ということでございます。御協力が得られないということになりますと、工業団地の進捗にも大きな影響が出るということでございまして、王子不動産とは平成2年の5月から、これは県の企業庁が主でございまして、市も同行するというような形の中で、平成4年度まで23回にわたりまして価格面等の条件を含めて協議をしてきたところでございます。その交渉経過の中で、今回のこういう条件であれば、一括購入してくれるということであれば同意をするというようなものが出てまいりまして、工業団地の事業主体でございます企業庁とも協議をいたしまして、この区域外の土地も購入して工業団地を推進していくという結論が導かれた、こういうことでございます。

それから、代替地の要望はどうかという御質問でございますが、これは説明会等で地権者の方々から、複数でございますが、代替地というようなことも考えられるのかというような質問はいただいております。ただ、具体的にどなたが必要としているというようなことは今後用地の取得交渉に入っていく中ではっきりと出てくるのではないかと。今何件あるのかというような具体的なものはお答えできませんが、御質問ございましたようにそういう

感触はあったということでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） これは総務委員会の中でもっともっと詰めると思うんですけども、今答弁のための答弁しているから、それでもって議会在済めばいいというものでは私はないと思います。それはもうはっきりしておきますけれども、今の答弁ですと、王子不動産で一括買ってくれ、これがかぎでもって、一括でなきゃ売るか売らないか、それによって工業団地ができるかできないかというこれは生命線のようなものだった。だから買ったんだ、こういう——今度買うんだと言っていますけれども、そこまでの論議が進められておいたら、ここのところをもう少し——半分以上のところを私は一緒に含んでなぜ地域として買わなかったのかということ出てきます。見て不自然です、これは。これをもっと大きくすればいい。これは地形のことだとか何とかって言いますけれども、この工業団地ができるかできないかのそういう今の答弁、こっちを責めるような答弁でございますから、責められても別にどうってことないんですけども、常識としてそれはちょっと無理じゃないか。その点について、それだけのものをやっておられたんだったら、なぜここでもってやらなかったかというのが1点。

もう一点は、県でもってそれだけの交渉——今部長が言ったように、この工業団地が一括でなきゃできるかできないか、一括でなきゃ売らないというのをどうしても頼み込んでやった。そして、県に買ってもらうというところまでいって、県も了解してもらった。それだけの努力があったら、なぜこちらの土地も県が買ってくれないんですか。市で買わなきゃならないというようなことが出てくるんですか。そのぐらいの交渉と現実というのがあってしかるべきです。今の答弁だと、全く市は何もやっていない。ただ言われるままということ以外に我々は解釈できないです、それは。この地形から見えていたってそうです。今部長が言われたとおりのことを本当にやっていれば、30何回やって、そして工業団地ができるかできないか。そこでもって、これは後でもって買いますからという条件でようやくのんでもらった。だから買

わなきゃいけないんだ。これは県に了解を受けたんだ、納得して。それだったらなぜこの区域の中へ入れなかったかという問題。それでも出ないということもう非常に矛盾しています。そんなの世間通りません。

もう一つは、それでもって県の了解をようやく得て、県の方も了解してくれたというんだったら、県に買ってもらえばいいじゃないですか。県でもって代替してもらうぐらいの交渉をしてもらいたい。館山の財政 6,000万大きいです。もっと有効利用したらいいです。そこら辺までやっぱり — 今答弁されるようなことがあったらそこまでいっているはずですが、こういう形が出てくるわけないんですから。

その点について2点だけ、最後の質問でございますからひとつ御答弁いただいて、あとは総務委員会の中で細かくやと思いますので……。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） まず、最初の御質問の区域の問題でございますけれども、これは当初区域外というようなものにつきましても企業庁の方と協議いたしまして、ある部分区域内に編入をいたしてございます。ただ、企業庁サイドの考え方といたしまして、先ほど市長答弁にもございましたように、区域につきましてもは分水嶺、そういうような地形上の問題で区域を決めておるわけでございます。この部分につきましてもそういう意味で区域内に編入することは難しいという結論が出たわけでございます。

それから、この区域外の土地の取得について、県に、企業庁の方に購入してもらおうようなあれはどうだったんだという御質問でございますが、そういうものを含めて企業庁と協議をした結果でございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 以上で26番議員辻田 実君の質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

◎議長（福原 勤君） ただいま議題となっております議案第70号乃至議案第74号の各議案は、お手元に配付の議案付託表のとおり所管の常任委員会に付託いたします。

議案の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第2、議案第75号乃至議案第80号の各議案を一括して議題といたします。

質疑応答

◎議長（福原 勤君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

21番議員神田守隆君。御登壇願います。

（21番議員神田守隆君登壇）

◎21番（神田守隆君） 議案第75号平成4年度館山市一般会計補正予算（第4号）についてお尋ねをいたします。

説明資料の24ページをお開きいただきたいと思います。民生費、身体障害者等扶助費ということで、1,440万8,000円の補正に関連をしてお尋ねをしていきたいと思ひます。この説明書によりますと、身体障害者の施設入所措置人員が当初の6人から決算見込みでは9人にふえたことが今回の増額の大きな原因となっております。措置人員3人の増で837万1,000円の増額というふうに読み取れるわけですが、これ自体はそれなりに理由のあることと思ひますが、お尋ねしたい点はこうした施設入所とともに在宅援護をもっと充実することができないかどうかという点であります。具体的には、例えば身体障害者の自宅ではスロープを設置したりとか、手すりを主要な場所に設置するとか、ふろやトイレを改造するとか、現在の自宅を手直しすることでかなりのことが可能になる例が多いかと思ひるのであります。こうした住宅改造への融資などの制度はありますが、市としても補助制度を充実するということを検討するお考えはないのかどうか、この辺についてのお考えをお聞かせいただきたいと思いますのであります。

次に、25ページであります。25ページの一番下でありますが、ごみ収集事業ということで、臨時職員賃金として140万円が計上されております。自動車借上料として58万8,000円が補正予算の予算書の中では同じく計上されているわけであります。この収集事業として市は紙の回収を実施しているわけですが、最近では古紙の価格が下落、低迷していると聞いております。民間業者の協力で館山市の紙の回収事業は成り立ってきたかと思うのでありますが、この紙の回収事業、先行き大変不安を感じるところでありますので、この実績の見通しをどういうふうに見ておられるのか、最近の価格の動向などとあわせて御説明をいただきたいと思います。

次に、議案第76号平成4年度館山市国民健康保険特別会計補正予算（第2号）についてであります。今回の国民健康保険の補正の内容は、退職被保険者等療養給付費として5,598万円ということで補正が計上されております。今年度の医療費の動向は次年度の国保税の動向にかかわることですので、今回の補正の前提となっている今年度半期の国保会計の状況がどうか御説明をいただきたいと思うのであります。前年度に比較して医療費の総額はふえておるのかどうか、ふえているとすればどのくらいの割合でふえておるのか、これの次年度の国保会計への影響はどのくらいなものと考えられるのか御説明をいただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの神田議員の御質問にお答えいたします。

一般会計補正予算の民生費、身体障害者等扶助費について、住宅改造補助はできないかとの御質問でございますが、増改築に係る資金援助といたしまして、生活福祉資金の住宅資金貸付制度と高齢者及び重度障害者居室等増改築改造資金の貸付制度がございます。また、日常生活の便宜を図る援助といたしまして、浴槽、湯沸かし器、便器、手すり等の給付及び浴槽等の取り付けに要する費用の一部を助成する制度がございます。今後もこれらの制度をさらにPRし、活用を図ってまいりたいと考えております。

次に、じんかい処理費の中の紙ごみの回収状況と問題点についての御質問

でございますが、再資源化のための古紙類の回収状況につきましては、本年11月までの回収量は644トン、対前年同月比では167トン、35%の増となっております。また、古紙回収業者が直納問屋へ納入する古紙の平均価格は、キログラム当たり平成2年度4円83銭、平成3年度5円92銭、平成4年11月までは平均3円9銭となっております。価格の下落により古紙回収事業への影響が懸念されるところでございますが、回収業者とも協議し、事業の安定化を図っているところでございます。

次に、国保会計半期の状況について、この御質問でございますが、現在把握しております9月分までの医療費を見ますと、前年に比べ4.1%の伸びとなっております。特に、退職被保険者等分につきましては療養給付費で17.2%、高額療養費で50.1%の高い伸びとなっております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 身体障害者の施設入所に伴いまして、今回補正出ているのは3人ふえて837万1,000円ということで、かなり高額ということになって、やはり施設入所というのは財政的に見てもかなり大きな負担を伴うものだということを改めて感じるわけでありますけれども、一方在宅でということでの体制としては、あくまでも基本的には貸し付けなんです。今融資という点での助成ということで、考えると大分――均衡という点から考えて、バランス的に見ても、もっと在宅に手厚くしてもいいんじゃないか。市の財政のお金の使い方としても、在宅援護をうんと充実することによってできる限り自宅の中でやっていけるような体制を援助していくということは、財政的な面から見ても結果的には非常に効率的なことにつながるんじゃないかなというふうに考えるんですけれども、これはせんだって社会福祉の大会の中で講演をなされたNHKの方の言われていたことになるほどなと思うことなわけなんです。東京の江戸川区ですか、非常に区長さんが積極的に――いや、今そういう在宅のために自宅にエレベーターを設置しておいても、そのことは区の財政から見れば、トータルで見れば非常に効率的なことなんだということと言っているというようなことであります。

そういう点から見て、現在の、今の御答弁では、貸付制度や、あるいは一部の助成についてのPRというような範囲では、どうも今の事態からすると均衡を失する。もっと在宅援護に手厚い助成なりを考えるべきじゃないかなと思うんです。手すりですとか、自宅にスロープをつくるとか、こういったことはもう市で全部補助してやりますというような——確かにエレベーターとかエスカレーターとかということになると、技術的な問題ですとか、あるいは費用的な問題とか、すぐにというわけにもなかなかいかないんだと思うんですけれども、例えばそういうようなところからでも始めていくとか、お考えがいただけないものかどうか。

それから、紙ごみの回収事業で、やはり市としてもこの制度の維持の問題では非常に懸念をしている。せんだって、ラジオを聞いていましたら、ことしは新聞の回収は、暮れは早く出さないと、元請の方が紙がだぶついてしょうがないんでもう引き受けないということなものですから、12月の早い時期に出しておかないとだめですよなんていうことをラジオの番組でやっていましたけれども、お正月も自宅に紙ごみがたくさん残されたままになりかねないというようなことらしいんですけれども、非常に価格が低迷をしてきている。業者との話し合いをしながらということでもありますけれども、業者としては採算的にペイをしなければこれはとてもやれない。そしてまた、実際に引き受けても置いておく場所がないとなると、元請の方が引き受けてくれないということになりますと、実際に回収ができないというような問題も出てくると思うんです。

したがって、場所の問題ですとか、あるいは価格——市の助成の内容の改善とか、こういう問題は業者との協議をしているということではありますが、そういう点ではそういうことを考えておるのかどうかということです。業者が引き受けなくなれば、投げ出したということになれば、これはもう市が直営の事業としてやるということも考えなきゃならないということもあろうかと思しますので、そこいらのお考えがどうかということです。

それから、国民健康保険でありますけれども、全体としては医療費の動向はこの半期 4.1%というお話で、しかし退職者関係では極めて伸びが大きい。

高額医療に関しては50%ですか、非常に大きな伸びが出たりして、これは一体何事なのかなという、そういうような数字なんです、こうした原因は何か、それについておわかりになっている範囲内で御説明をいただきたい。これは来年の国保会計への影響という点から、どういような影響がそういう原因の分析を含めまして考えられるのかお聞かせをいただきたい。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） まず第1点の住宅改造関係でございますけれども、御指摘のとおり在宅の身障者に対する住宅の補助制度、これはいろいろ問題があるところでございます。基本的には国が10カ年戦略の中で緊急対策とか——いわゆる在宅の方向を打ち出しているわけでございますけれども、この中での考え方といいますか、国の考え方の中でやはりまず一つサポートしていかなくちゃならないんじゃないかなというふうに思います。館山市におきましては、いわゆる先ほどお話がありました便器とか手すりとか、そういうものは助成をしているわけでございますけれども、これからこの問題につきましては大いに勉強してまいりたいというふうに考えています。

2つ目の古紙の関係でございますけれども、この古紙についてはいろいろマスコミ等にも取り上げられているわけでございます。以前ですと、やはりこの紙の需要は文化のバロメーターだというようなことで言われていたわけでございますけれども、最近のこの景気の低迷といいますか、そういうもの。さらに、リサイクルのシステムが機能して非常に回収の部分がふえてきた。需要がそれに追いつかないというようなことがこれは全国的に言われているわけでございます。館山市でもそういうことがございまして、4業者に対しまして、今回補正をお願いしまして若干の修正を、基本的な部分の中での修正をしているわけでございますけれども、今後こういう基本的な部分については変更はしないで、いろいろ協議をしながらやっていきたいというふうに考えております。

最後の国保会計の問題でございますけれども、このふえている原因は何かというようなお話でございますけれども、この退職者医療につきましては、いわゆる被保険者が横ばいといいますか、変わらないわけです。一般の場合

は少しずつ減少している。いわゆる被用者保険の方に入っている部分がありますので、実績を見ましても減っているにもかかわらず、退職者の方は横ばいか若干ずつふえているというようなこと。それから、高額医療等については、やはり人工透析の患者が若干ふえているというようなことでこういうような動向になっているわけでございます。ただ、国の最近の医療費の動向を見ますと、医療費の改定等もありましたけれども、若干ふえているというのが見られます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 以上で21番議員神田守隆君の質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ありませんか。――御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託

◎議長（福原 勤君） ただいま議題となっております議案第75号乃至議案第80号の各議案は、お手元に配付の議案付託表のとおり所管の常任委員会に付託いたします。

請願書の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第3、請願第10号及び請願第11号の各請願を一括して議題といたします。

委員会付託

◎議長（福原 勤君） ただいま議題となりました各請願は、ともに12月9日の議会運営委員会開催までに受理したものであります。

お手元に配付の請願付託表のとおり所管の常任委員会に付託いたします。

議長の報告

◎議長（福原 勤君） なお、この際申し上げます。

12月9日議会運営委員会開催までに受理した陳情書は、お手元に配付の陳

情送付表のとおり所管の常任委員会に送付いたしますので、御報告いたします。

延 会 午前11時23分

◎議長（福原 勤君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会とすることに決しました。

なお、明17日から21日までは委員会での議案審査のため休会、次会は12月22日午後2時開会といたします。その議事は、議案第70号乃至議案第80号にかかわる委員会での審査の経過及び結果の報告、討論、採決並びに追加議案の審議といたします。

この際申し上げます。各議案等に対する討論通告の締め切りは12月22日午前9時でありますので、申し添えます。

◎本日の会議に付した事件

- 1 議案第70号乃至議案第80号
- 1 請願第10号及び請願第11号